

第2学年 道徳科学習指導案

児 童 2年1組 25名(さくら学級1名)
指導者 宮澤 弘子

1 主題名 「助け合う友達」 B〔友情、信頼〕

教材名 森の ともだち (東京書籍「道徳2年 新しいどうとく」P.56-59)

2 主題について

(1) 価値について

本単元における内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「友情、信頼」は「友達と仲よくし、助け合うこと。」をねらいとしている。この内容項目は、中学年では「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」に発展していく。

この時期の児童は、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいこともある。しかし、学級での生活の中で自分の欲求を押し通すだけでなく、譲り合ったり許し合ったり、力を合わせて成し遂げたりする中で、友達と仲良くし、助け合うことの心地よさを感じ得させていくことが大切であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童について

本学級の児童は、男女とも仲がよく、ペアやグループで活動するときも、それぞれの意見を順番に言ったり相談したりしている。学年目標の一つに「約束を守り友達にやさしい2年生」を掲げている。水をこぼし困っている友達がいると、雑巾を持って数名が飛んできて拭き始める。欠席者がいて給食の仕事が滞ると代わりに仕事をするなど、自分たちで気づき、活動する意識が芽生えつつある。

帰りの会の「みんなから」では、多くの児童が手を挙げ、友達にしてもらってうれしかったことなどを発表しているが、いつも同じ児童に限られている。そこで、同じ学級の仲間として児童一人ひとりがよりよい友達関係を築くために、誰に対してもやさしい気持ちで助け合っていこうとする態度を育てたい。

(3) 指導にあたって

「気づく」段階では、学級の中での様子を想起させ、本時の価値への方向付けを行いたい。また、資料の場面状況を捉えさせるために、挿絵を活用し、視覚に訴えながら理解を促したい。

「深める・つかむ」段階では、森の動物たちが相談した時の気持ちについて、森の動物になりきり、こんきちを助けに行くかどうか考えさせる。動物たちの迷いと、仲よしではないけれど、困っている仲間を助けようとする気持ちを感じ取ることができるようにする。その後、森の動物の行動によって、引き返し、泣きながら謝ったときのこんきちの気持ちを考えさせ、みんなのことを考えて助け合って仲よくしたいという心情に気付かせ、ねらいとする価値へ迫りたい。

「見つめる」段階では、泣きながら謝ったこんきちに対し、森の動物たちがどんな声をかけるのか考えさせ、役割演技を通して、森の動物たちの寛容な気持ち、仲間としての思いを感じ取らせたい。そして、仲よく助け合い、励まし合っていこうとすることのよさについて触れ、これからの生活につなげられるようにしていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。

(2) 研究仮説の具現化に向けた手立て

①自我関与のさせ方の工夫

場面	ねらい	手立て
何かを相談している動物たち	いやな思いをさせられてきた相手が困っている様子を見た時にどうするかを考えさせ、動物たちの葛藤とこんきちを助けた理由を明らかにする。	・立場と根拠の明確化 ・揺さぶる発問
大声で泣き出したこんきち	大声で泣きながら謝る理由を語らせ、ねらいとする道徳的価値の理解を図る。	・ワークシート

②多面的・多角的に考えさせる場のあり方

場	ねらい	手立て
何かを相談している動物たち	嫌な思いをさせられてきた相手を救うか、このまま逃げるかという揺れ動く心情を理解させ、助け合うことの大切さだけではなく、難しさも感じさせる。	・揺さぶる発問

③自分を振り返られる工夫

発問	ねらい	手立て
泣きながら謝ったこんきちに声をかける動物たち	こんきちを責めながらも許す気持ちや、こんきちを心配する思いを感じ取らせ、友達と仲よくすることや助け合うことの大切さを理解させる。	・役割演技 ・揺さぶる発問

(3) 展開

		学習内容と主な発問	期待される児童の反応	指導上の留意点 (留意点・評価★)
導入	気づく 4分	1 友達との関わりを想起する。 ○どんな時に友達っていいなって思いますか。	・「一緒に遊ぼう」と言ってくれた。 ・けがをしたとき	・出来事だけではなくその時の心情も問いながら、ねらいとする道徳的価値に対する導入を図る。
展開前段	深める つかむ 27分	2 「森のともだち」をP58L2まで読み、教材前半の状況をとらえる。 (1) こんきちと森の動物たちの気持ちを話し合う。 ○どうしてこんきは、森の動物たちに乱暴なことをしていたのでしょうか。 ○こんきちの「たすけてくれ」という叫び声を聞いたとき、森の動物たちはどんなことを相談したのでしょうか。 3 「森のともだち」の続きを読み、教材の後半の状況を捉える。 (1) こんきちの気持ちを話し合う。 ◎大声で泣き出したとき、こんきは、どんな気持ちだったでしょう。 ・「ごめんよ。ごめんよ。」の後に何と言ったでしょう。	・小さい動物より、自分のほうが強い ・自分が強いところを見せたい ・逃げる姿が楽しい ・こんきちくんを助けに行かないと ・でも、オオカミに食べられちゃうかも ・乱暴なこんきちなんか助けなくていい ・同じ森の仲間なんだから助けようよ ・自分の代わりにびよん子がけがをして ・僕だけ逃げて ・みんなが助けてくれるなんて思わなかった ・自分のことしか考えてなかった ・助けてくれてありがとう	・教材の世界観に浸らせるために、紙芝居を用いる。また、複数の選択肢の間で揺れるということを体験させるために中断読みをしながら進める。 ・他人のことを考えず自分勝手に振る舞うこんきちの気持ちを考えさせる。 ・森の動物になり、こんきちを助けに行くかどうか考える。 [手立て1] ・違う考えを持つ友だちの意見を聞き、多様な考えがあることに気付けるようにする。 ・悩んだ結果、こんきちを助けに行っていたことに触れる。 [手立て2] ★ 友達と助け合うよさを考えることができる。 (ワークシート・発表)
展開後段	見つめる 12分	4 友達について考える。 ○大泣きしたこんきちに、動物たちはどんな声をかけたでしょう。	・ひどいよ。自分だけ逃げて。 ・おそいよ。 ・大丈夫だった？ ・これからは仲よくしよう ・もう乱暴しないだね	・動物になりきってこんきちに声をかけることで、今後の生活の中でのともだちとの接し方を考えさせるようにする。 (役割演技) [手立て3]
終末	まとめる 2分	5 まとめる ○この後こんきは怎么样了。	・困っている人がいたら協力するようになった。 ・みんなと仲良く暮らした ・助け合った	・続きの話を考え、こんきちの行動を語ることを通して、仲よく助け合おうとする態度を育む。

森のどうぶつたち

やさしい

「ごめんよ。
ごめんよ。」

- ・ 今までごめんね。
- ・ たすけてくれて、ありがとう。
- ・ びょう子がけがしたなんて。

大声でなきだした。

じぶんのたすかることだけをかんがえてにげてきたことがはずかしなってきた

むちゅうになっけてにげた。

そうだんする森のどうぶつたち

たすけに行かないと。
なかまただから、たすけよう。

どうしよ

こわい

こんきち

よい友だちとは

森へひっこしてきた

自分が強い。
にげるすがたがおもしろい。
みんなに強いところを見せたい。

「たすけてくれ。」

おおかみ

・ ともしもにしてくれ
・ ともしもにしてくれ
・ これからは、らんぼうしないでね。
・ なかよくしてね。
・ みんなで助け合っていこうよ。

森のともだち

名 前

◎ 大声でなき出したとき、みんなはどんな気持ちだったでしょう。

「いめんよ、ごめんよ。」の後に 何と言ったかつつきを書きなさい。

「いめんよ、ごめんよ、ごめんよ。」

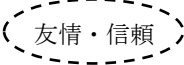
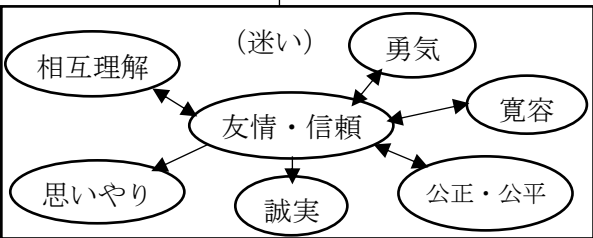
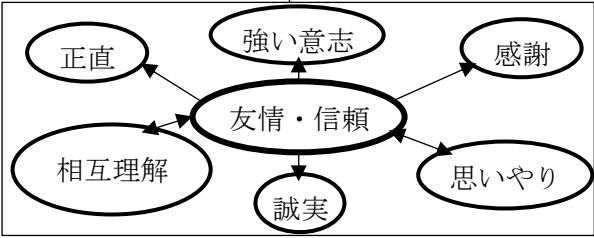
「 。



〈教材分析図〉

1 教材名 森のともだち（東京書籍）

2 ねらい 友達と仲よく助け合っていこうとする態度を育てる。

主な場面	こんきちが、森の動物たちに乱暴なことをしている場面。	こんきちの叫び声を聞いたとき、森の動物たちが、相談している場面。	こんきちが、大声で泣き出した場面。
心の動き	・自分のほうが強い。 ・みんなに強いところを見せたい。 ・逃げる姿がおもしろい。	・助けに行かないと。 ・でも、おかみに食べられちゃうかも。 ・乱暴なこんきちなんか助けなくていい。 ・同じ仲間なんだから助けようよ。	・自分の代わりにびよん子がけがをしたなんて。 ・僕だけ逃げてごめんなさい。 ・みんなが助けてくれるなんて思わなかった。
価値の関連			
気付かせたいこと	・自分の思い通りにしたい気持ち。 ・みんなが怖がるのを楽しむ気持ち。 ・自分の強さを見せつけたい気持ち。	・森の動物たちが、こんきちを助けに行くか相談する気持ち。 ・乱暴者は助けなくていいと思う気持ち。 ・森の仲間だから助けなければという気持ち。 ・助けを求めているから助けようという気持ち。	・自分のことしか考えていなかったことを反省する気持ち。 ・森の仲間の大切さに気付く。 ・自分の代わりにケガをしたびよん子を思いやる気持ち。 ・これまでのことを謝罪する気持ち。
主な発問	○こんきちが、森の動物たちに乱暴なことをしていたのはどんな気持ちからでしょう。	○こんきちの叫び声を聞いたとき、森の動物たちはどんなことを相談していたのでしょう。	○大声で泣き出したとき、こんきちはどんな気持ちだったでしょう。